

第74期 株主通信

2019年4月1日から2020年3月31日まで

ロジスティクスに最適解を
大石産業株式会社

証券コード：3943





企 業 理 念



常に新しく価値ある商品・サービスを提供する
働きがいのある豊かな生活を実現する
成長分野で、優れた業績を約束する
社会と地域に有用な存在となる
地球環境の保全に貢献する



CONTENTS

TOP MESSAGE	2
営業の概況	3
連結業績ハイライト	5
主要連結財務データ	6
セグメント情報	7
TOPICS	9
次期の見通しと配当について	11
株式の概況	12
会社の概況	13

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は2020年3月31日をもって、第74期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)事業年度を終了いたしましたので、ここに事業の概況をご報告申し上げます。

2020年は、福岡証券取引所に上場して40周年となります。

今後とも株主の皆様のご期待に沿えるよう、企業価値の向上に努めてまいりますので、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長 久継 雅夫



当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・個人消費の改善、設備投資の持ち直しがみられ、景気は緩やかな回復基調で推移してきましたが、米中貿易摩擦の長期化や英国のEU離脱等に加えて、世界中で感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響による世界経済の停滞や金融資本市場の変動等により、景気は大幅に下押しされており、厳しい状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループは「TPS(トータル・パッケージング・ソリューション)提案」により顧客満足を徹底的に追求するとともに、全社をあげてイノベーション活動に取り組み、業績向上に努めてまいりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は、フィルム製品、海外重包装袋が減収となりましたが、第1四半期にグループ会社に迎え入れた柳沢製袋株式会社の重包装袋の売上に加え、樹脂成型品が順調に推移したことで、191億45百万円(前連結会計年度比1.9%増)となりました。利益については、営業利益は9億97百万円(同31.3%増)、経常利益は11億87百万円(同25.7%増)、当期純利益は8億27百万円(同43.4%増)となりました。

増益の主な要因については次のとおりであります。緩衝機能材事業におけるパルプモールド製品のコストダウン効果や段ボール部門の収



ドリンクキャリア

当社のドリンクキャリアは、新聞古紙を主原料としてリサイクルされたパルプモールド製品であり、ファストフードチェーン店での飲料の持ち帰り用として利用されています。全サイズのドリンクに使用可能で、分割して1個から使用でき、安定性、吸水性に優れているのが特長です。これからも環境負荷の低減に大きく貢献してまいります。

益改善等、また、包装機能材事業においては海外における重包装袋部門の収益改善であります。

なお、期末配当につきましては、福岡証券取引所上場40周年記念配当2円を含め、1株につき31円とさせていただきました。

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、世界経済全体の成長が落ち込むと見込まれ、日本国内においても個人消費の落ち込み、企業収益の悪化等により厳しい状況が続くものと推測されます。

このような状況下、当社グループは販売、製造部門のイノベーション活動の展開を更に活発化するとともに、新製品の開発推進、品質改善活動や原価低減に取り組み、業績向上に努めてまいります。

主な重点課題として以下の3点に取り組みます。

①ESGへの取り組み

脱プラスチック社会に向けたパルプモールド需要の創造、SDGs理念に合致した新しいフィルム分野の開発・開拓

②生産効率化

生産ラインや検査ラインの効率化、省人化の推進

③R&D開発

新製法による機能性製品およびオリジナル製品の開発

売上高

19,145百万円

(前期比 1.9%増)

営業利益

997百万円

(前期比 31.3%増)

経常利益

1,187百万円

(前期比 25.7%増)

当期純利益

827百万円

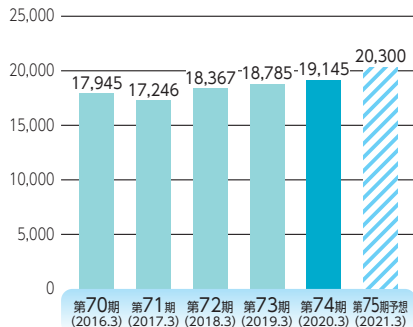
(前期比 43.4%増)

決算のポイント

- 売上高につきましては、フィルム製品、海外重包装袋が減収となりましたが、第1四半期にグループ会社に迎え入れた柳沢製袋株式会社の重包装袋の売上に加え、樹脂成型品が順調に推移したことで増収となりました。
- 利益につきましては、緩衝機能材事業におけるパルプモールド製品のコストダウン効果や段ボール部門の収益改善等、また、包装機能材事業においては海外における重包装袋部門の収益改善により、増益となりました。

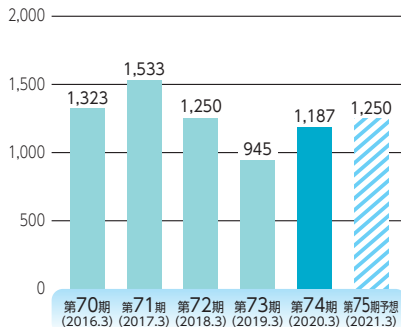
売上高

(百万円)



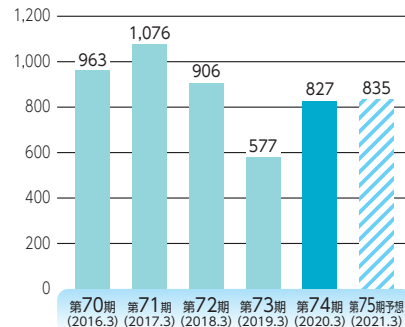
経常利益

(百万円)



当期純利益

(百万円)



科 目	第70期 (2016.3)	第71期 (2017.3)	第72期 (2018.3)	第73期 (2019.3)	第74期 (2020.3)
売上高 (百万円)	17,945	17,246	18,367	18,785	19,145
営業利益 (百万円)	1,103	1,377	1,079	759	997
経常利益 (百万円)	1,323	1,533	1,250	945	1,187
当期純利益 (百万円)	963	1,076	906	577	827
設備投資額 (百万円)	227	1,144	792	594	881
総資産 (百万円)	18,753	20,007	21,033	21,006	21,959
純資産 (百万円)	11,627	12,593	13,478	13,407	13,798
1株当たり当期純利益 (円)	240.33	268.54	226.03	145.84	214.49
1株当たり純資産額 (円)	2,897.68	3,137.84	3,356.88	3,449.61	3,571.31

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。第70期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益および1株当たり純資産額を算定しております。

緩衝機能材事業

売上高 **87** 億 **22** 百万円

営業の概況

パルプモールド部門は、売上高は工業品分野で減収となったものの、畜産物・青果物分野が堅調に推移し、パルプモールド部門の売上高は48億4百万円(前連結会計年度比2.1%増)となりました。

段ボール部門は、農業分野は増収となりましたが、加工食品や紙・木工・繊維加工品向けなど工業品分野が減収となり、売上高は30億83百万円(同2.0%減)となりました。

成型部門は、樹脂成型品は生産が軌道に乗ってきたことで増収となり、売上高は従来の宙吊り式包装容器(ゆりかご)とあわせて8億35百万円(同37.2%増)となりました。

その結果、当事業の売上高は87億22百万円(同3.1%増)となり、セグメント利益は9億62百万円(同37.3%増)となりました。

●主要製品紹介

[パルプモールド]

パルピー(個装用鶏卵パック)

畜産分野では、主に鶏卵パックや業務用の鶏卵トレーとして当社のパルプモールド製品をご採用いただいております。環境にも鶏卵にも優しい古紙を原料としたリサイクル容器です。



[段ボール]

段ボールとパルプモールドのセット品

段ボールにパルプモールド製の緩衝材をセットすることで、緩衝性能を最大限に引き出したパッケージのご提案を行っております。



[成型]

食品トレー

近年の中食(なかしょく)需要の増加に伴い、当社は食品トレー用フィルムの製造および食品トレーの製造までを一環して行っております。



包装機能材事業

売上高 **99億20** 百万円

営業の概況

フィルム部門は、食品容器用フィルムが減収となった影響で、売上高は37億64百万円(前連結会計年度比7.3%減)となりました。

重包装袋部門は、海外は中国経済の減速による物流減少および現地マーケットの競争激化により減収となりましたが、国内は既存分野で化学薬品分野が堅調に推移したことや柳沢製袋株式会社の売上貢献により増収となり、重包装袋部門の売上高は61億55百万円(同7.9%増)となりました。

その結果、当事業の売上高は99億20百万円(同1.6%増)となり、セグメント利益は9億17百万円(同3.1%増)となりました。

●主要製品紹介

[フィルム]

食品容器用フィルム

スーパーやコンビニなどで販売されている弁当・惣菜の食品容器に当社のポリスチレンフィルムが広く使用されています。当社のポリスチレンフィルムは、容器の強度だけでなく美粧性も向上させることができ、中身の食品をより一層際立たせます。



[重包装袋]

ブル多層袋

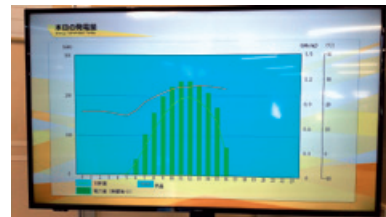
片側はホットメルトで封緘しており、お客様が開口部から充填できるようになっております。内袋にアルミフィルムやポリエチレンフィルムを使用することで、より防湿性を高めることも可能です。



1 太陽光発電導入～鞍手工場～

2020年2月に当社鞍手工場に太陽光発電設備を導入し、本格稼働を開始いたしました。当事業は、公益社団法人日本環境協会の二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業)の対象事業として認められました。太陽光を利用して発電するためCO₂をほとんど排出せず、温室効果ガスの削減につながります。発電量は約30万kwh/年となり、従来の電力使用量の約4.3%のグリーンエネルギー化を実現いたします。

当社の企業理念のひとつである「地球環境の保全に貢献する」をこれからも実践してまいります。



2 エコテクノ2019にアルエコ(移動式リサイクル工場)が出動

2019年10月、北九州市主催の「エコテクノ2019」に、体験型移動式リサイクル工場「アルエコ」を出展し、パルプモールド製品の展示や古紙回収・リサイクルへの取り組みをPRいたしました。

当社は、包装資材の総合メーカーとして、これからも環境負荷に配慮した製品づくりを通して「SDGs(持続可能な開発目標)」の実現を目指してまいります。



3 気候変動・災害対策Biz2019に出展

2019年12月、東京ビッグサイトにて行われた「気候変動・災害対策Biz2019」に、当社パルプモールド製品(パルピー、花菜ポット、法面緑化工法)を出展いたしました。

年々猛威を振るう気候変動に対しての防災・減災ソリューションを紹介する展示会において、当社のパルプモールド部材を使用した法面緑化工法は多くの土木・建設関係の方に興味をもっていただきました。



●次期の見通し

各事業区分別の取り組みは以下のとおりであります。

①緩衝機能材事業

- 基盤製品の取り組み強化
- 最適生産体制の確立とコストダウンによる収益力強化

②包装機能材事業

- 新機能・環境配慮型フィルムの開発
- 品質・生産性の強化および再構築

●第75期(2021年3月期)予想

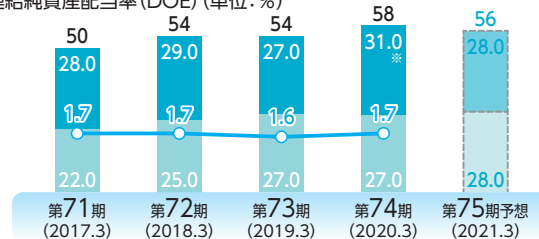
売	上	高	20,300	百万円 (前期比 6.0%増)
営	業	利	1,045	百万円 (前期比 4.8%増)
経	常	利	1,250	百万円 (前期比 5.2%増)
当	期	純	835	百万円 (前期比 0.8%増)

●配当政策

当社グループは、生産性の向上等による利益体質の強化を図りながら、将来の事業展開に備えた内部留保を確保しつつ、連結純資産配当率(DOE)1.5%以上を目安に、安定的に配当を実施する方針としております。

1株当たり配当金(■期末配当 ■中間配当)(単位:円)

○連結純資産配当率(DOE)(単位:%)



(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。上記のグラフでは、過去にさかのぼって比較できるように、第71期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して表示しております。

●株式の状況 (2020年3月31日現在)

(1) 発行済株式の総数 4,664,000株 (自己株式含む)

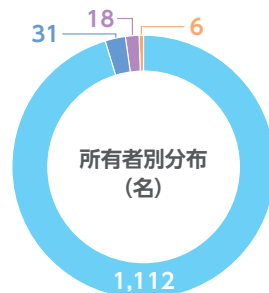
(2) 株主数 1,167名

(3) 大株主

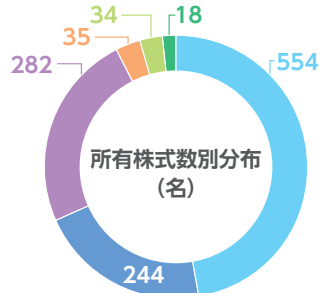
株主名	持株数	持株比率
王子ホールディングス株式会社	381千株	9.65%
OSK社員持株会	284千株	7.20%
株式会社西日本シティ銀行	189千株	4.79%
株式会社福岡銀行	186千株	4.72%
三井住友海上火災保険株式会社	184千株	4.67%
株式会社北九州銀行	175千株	4.45%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	107千株	2.72%
中村泰子	104千株	2.65%
株式会社ニシキ	100千株	2.53%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	98千株	2.48%

(注) 持株比率は自己株式 (711千株) を控除して計算しております。

(4) 株式分布状況



● 個人・その他 1,112名 (95.3%)
 ● その他の法人 31名 (2.7%)
 ● 金融機関 18名 (1.5%)
 ● 外国法人等 6名 (0.5%)



● 500株未満 554名 (47.5%)
 ● 500株以上 244名 (20.9%)
 ● 1千株以上 282名 (24.2%)
 ● 5千株以上 35名 (3.0%)
 ● 1万株以上 34名 (2.9%)
 ● 5万株以上 18名 (1.5%)

●会社の概要 (2020年3月31日現在)

商 号	大石産業株式会社 OHISHI SANGYO CO.,LTD.
本社所在地	北九州市八幡東区桃園二丁目7番1号
設 立	1947年2月3日
資 本 金	4億6,640万円
支 店	東日本／東京／関西／北九州／九州／シンガポール
工 場	八戸、茨城、鞍手、小倉、直方
従 業 員 数	324名(グループ565名)

連結子会社

株式会社アクシス	ENCORE LAMI SDN. BHD.
CORE PAX(M) SDN. BHD.	柳沢製袋株式会社※

※2019年5月31日付で柳沢製袋株式会社を子会社化いたしました。

取締役 (2020年6月24日現在)

代表取締役社長	久 継 雅 夫
専 務 取 締 役	田 中 英 雄 (昇任)
常 務 取 締 役	山 口 博 章 (昇任)
取 締 役	高 田 圭 二
取 締 役	今 泉 弘 (新任)
取 締 役	藤 村 由 賢 (新任)
社外取締役 (常勤監査等委員)	宮 地 郁 夫
社外取締役 (監査等委員)	長 門 博 之
社外取締役 (監査等委員)	川 本 惣 一
社外取締役 (監査等委員)	福 地 昌 能

大石産業グループ拠点マップ



CORE PAX (M)
SDN. BHD.



ENCORE LAMI
SDN. BHD.



鞍手工場



本社



直方工場



小倉工場

長崎
熊本



株式会社アクシス



柳沢製袋株式会社



茨城工場



大分



● 営業拠点 ● 製造拠点

北海道

青森

茨城

埼玉

東京

大阪

京都

奈良

和歌山

徳島

高松

香川

愛媛

高知

福岡

佐賀

長門

大分

熊本

鹿儿岛

沖縄

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
公告掲載方法	電子公告制度により行います。 公告掲載URL http://www.osk.co.jp/ (ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います)
上場証券取引所	福岡
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	福岡市中央区天神二丁目14番2号 日本証券代行株式会社 福岡支店
郵便物送付先 お問合せ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 電話 ☎0120-707-843

各種手続のお申出先

- 未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等、証券会社をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
証券会社をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行へお申出ください。

特別口座でのお手続用紙のご請求は、インターネットでもお受け付けいたしております。

ホームページアドレス

<https://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html>

(一部の用紙は、お手持ちのプリンタで印刷できます。)

大石産業株式会社

〒805-0068 北九州市八幡東区桃園二丁目7番1号
TEL.093-661-6511 FAX.093-661-1641
<http://www.osk.co.jp/>